

福祉だより ぬくもり



第66号
平成24年12月18日
西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長 生田 収



十一月十六日、このところの荒れ模様と川西市と近接各市町に水を供給している「一庫ダム」の施設を見学しました。途中のバス車内で、研修部の瀬戸さんが、水源について説明。ちなみに私たちが飲用している水は、主に金仙寺湖を水源とし、不足分は一庫ダムによるとのこと。

一庫ダムでは、職員からダムを持つ三つの機能である①洪水を防ぐ②川に水を流し動植物を育み田畑を潤す③水道水を供給する、などの説明を受けました。その後、三班に分かれ、七五メートルの高さのあるダム施設を見学しました。

一庫ダムの水を貯めていながら流す装置

十一月十六日、このところの荒れ模様と川西市と近接各市町に水を供給している「一庫ダム」の施設を見学しました。途中のバス車内で、研修部の瀬戸さんが、水源について説明。ちなみに私たちが飲用している水は、主に金仙寺湖を水源とし、不足分は一庫ダムによるとのこと。

福祉講座バス研修 一庫ダムを見学して

研修部 曾我 嘉和

など、意外と大きなダムの内回りを見学して、秋の深まる丹波路の紅葉を楽しみながら、今田町にある「ぬくもりの郷」で昼食をとった後、「陶の郷」に移動しました。丹波焼は瀬戸、常滑、信楽、備前、越前とともに日本六古窯の一つに数えられているそうです。さらに、兵庫陶芸美術館では、この時期に展示している中国陶磁器の古代豊かな名品の数々を観て回り、日本、中国それぞれに魅力のある作品を堪能しました。

最後に「水」に学び、「土」に癒された



ぬくもりの郷で昼食

北六ほんわか

アイマスク体験をして

北六甲台小学校 4年生担任



4年生は、2学期に「北六ほんわか大作戦」として総合的な学習で福祉に取り組んでいます。その中で目の見えない人のことについて知ろうと「アイマスク体験」を実施しました。アイマスク体験では、目の見えない人の暮らしや目の見えない人へのサポートの仕方などを知ることができ、子供たちにも一生懸命考え、取り組む姿が見られました。

初めてアイマスク体験をして、目の見えない人が毎日どんなに不安な気持ちで暮らしているのかわかることができました。この経験を忘れずに町で目の不自由な人が困っていたら、声をかけてあげたり、サポートしてあげたりしたいと思いました。

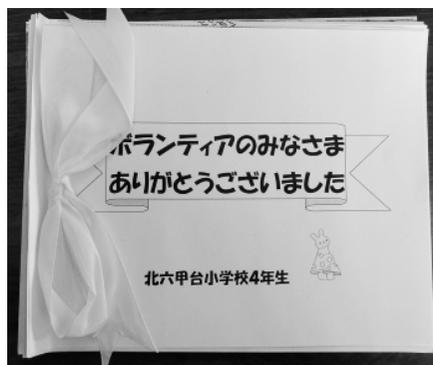
子供たちの感想にもありましたが、有意義な活動になったと思います。たくさんボランティア

子供たちの感想文から

ぼくは初めてのアイマスク体験で怖いと思いました。なぜかと言うと、なんにも見えなかったからです。目が見えない人は、それでも外を歩いたりしているので、ほんとうにすごいと思いました。最後にボランティアの方が言っていたとおり、ふざけずにじゅぎょうにはげんでいきたいです。

子供たちの感想文

今日は、アイマスク体験をさせていただいて本当にありがとうございます。ぼくは目の見えない人がどんな生活をしていたのかということは考えたこともありませんでした。しかし今日アイマスク体験をさせていただき、目の見えない人がどんなに大変かを知りました。ぼくが一番大変だったのは階段ですが、目の不自由な人は、どこが一番大変なのかまた聞いてみたいです。



ボランティアのみなさま
ありがとうございました

北六甲台小学校4年生

北六甲台自治会
文化祭

ふれあい喫茶の紹介

分区長 生田 收



今年も社協北六甲台分区は、秋の北六甲台自治会の文化祭に、各部の活動紹介の展示と、「ふれあい喫茶」で参加させていただきました。

「だれもがしあわせに暮らせるまちづくり」を目指して、福祉活動の一つとして、分区としてふれあい喫茶部の皆さんを中心に、ボランティアの皆さんで運営しているところです。

地域でお住まいの方々が、気軽に集まって交流することでつながりを深めるために、またより住みよい地域づくりのために、分区では北六甲台自治会館と上山口東安心プラザ(集会所)で月一回ふれあい喫茶活動をしています。

地域の喫茶活動は、ひとりで黙ってコーヒーを飲んで帰る、というのではなく、そこに行けばご近所の方がおり、ボランティアの皆さんがいて「おしゃべり」ができるなどの目的もあり、時には音楽イベント等もあります。また、地域の方が気軽に集い、自由に交流することで、孤立感の解消や仲間づくりにもなり、顔見知りも増え、気軽にあいさつを交わし、日常のつながりへと広がっていきます。「ふれあい喫茶」は、こうしたことを目的とした地域福祉活動です。

11月4日、北六甲台自治会の文化祭での「ふれあい喫茶」では約180名の方々のご来場がありました。ありがとうございました。

これを機に、ぜひ気軽に「ふれあい喫茶」にまずは足を運んでください。まずは地域デビューをしましょう。お待ちしております。地域でのつながりを作っていきます。無料ですよ。

分区が活動しているふれあい交流の場づくり

- ふれあい喫茶(2ヶ所)
第2水曜:北六自治会館
第3水曜:上山口東安心プラザ
- 子育て支援活動「ともだちつくり」
第4金曜:北六甲台コミュニティセンター
- 障がい者支援活動「青い空」
毎週月曜:北六甲台安心プラザ
- 敬老のつどい
- ふれあい食事会
1月に75歳以上の皆様ご招待の食事交流
- 三世代交流グラウンドゴルフ
- 山口支部の「さくらまつり」



歳末助け合い募金のご報告

ご協力ありがとうございました

47,378円
の募金を頂きました



「老老」という名のつく「介護」をする身になって

蘆田 敏郎



高齢者と呼ばれる年になると遠からず介護を受ける身、つまり、心身に故障を持つ身になるのは避けられない人生の道である。

私も妻も年齢相応に心身ともに弱ってきたが、「まだまだ元気、日常生活は十分できる。」そう思っていたが、介護は、「予告なし」「待ったなし」にやってくる。

去年7月、妻が「要介護1」になった。「もう、私の手に負えない」と、市に電話してから約3カ月半。「どうにでもなれ」と思う頃、認定書が届いた。ところが、それから半年して書面で、「要支援2にした」異議があれば申し出ること。と、但し書きのある通知書が来た。説明もせずに変更して異議をと言われても困惑する。

今、週1回掃除の援助を受ける。一番困るのが食事。夕食で一日の栄養の殆どを摂っている我が家では死活問題。宅配の副食を隔日、他の日はスーパーで買う。時々近隣の方のご厚意に甘えているのが現状である。恥を忍んでお伝えするがこれが我が家の現状の一端である。

助けを求める。ということとは、他人の世話・力を借りるということ。「遠くの・・・より近くの・・・」という言葉の通り、頼りになるのは、近隣・地域の方々である。現実には直面しても役所は残念ながら、人手不足・手続き・調査等決定まで時間がかかり緊急時には間に合わない。地域には、子育て・超高齢者・心身障害者等々問題を抱えている家族が居るが、殆どは当事者や家族が必死に対処しているのが現状である。

そこで、次のようなことをお願いしたい。北六甲台自治会会則第2条目的には、会員の「福祉増進」とあり「相互扶助により」「地域社会の発展に寄与」と明記されている。他自治会も表現は違っても目的は同じだろう。地域には、「有識・優れた技術・技能」を持ち実のある活動をしている各種団体、また、病院・各種の医院・福祉施設・事業所等がある。各種団体の活動力と専門機関の知識と施設の協力を得て連携を図れば大きな力となり福祉のみならず、私たちの日常生活の中でおこる悩み解決や災害時にも役立ち、ひいては地域全体の幸せとなります。まず自治会の目指す「誰もが住みやすい地域」になる。

前分区責任者として恥じ入りながら、自治会・社協分区を中心に地域力の組織化を是非して頂きたいと願う。